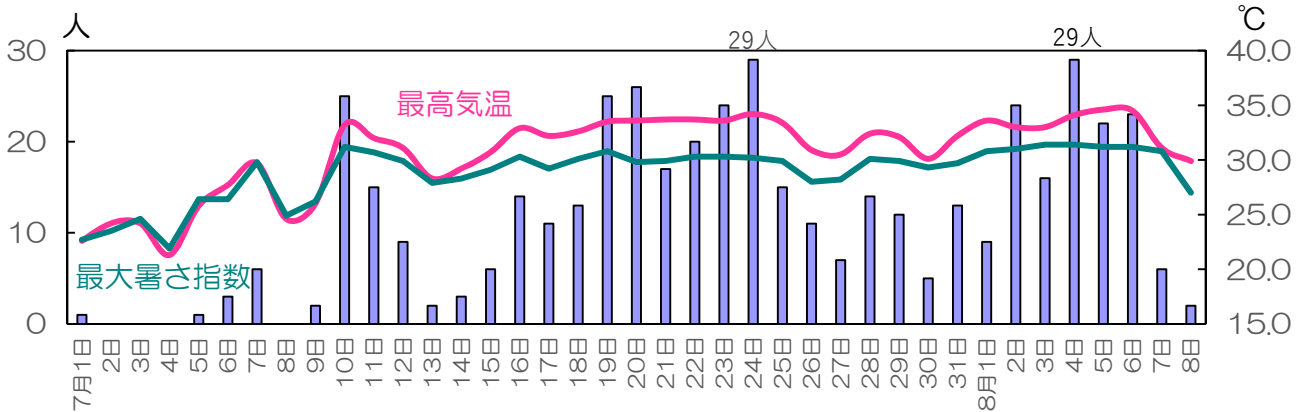


熱中症情報

＜搬送数＞

令和3年5月1日～8月8日までの搬送数（消防局データを使用）は、計521人（5月19人、6月42人、7月329人、8月131人）でした。7月はじめは搬送数が少なめでしたが、7月16日以降、最高気温が32℃を超え、搬送数も増加傾向です。7月24日・8月4日は、最高気温が34℃以上で、搬送数も多く29人でした。しばらくは暑い日が続きますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

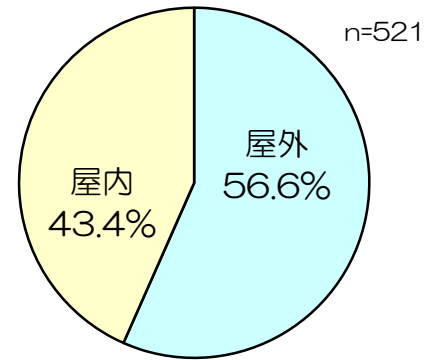
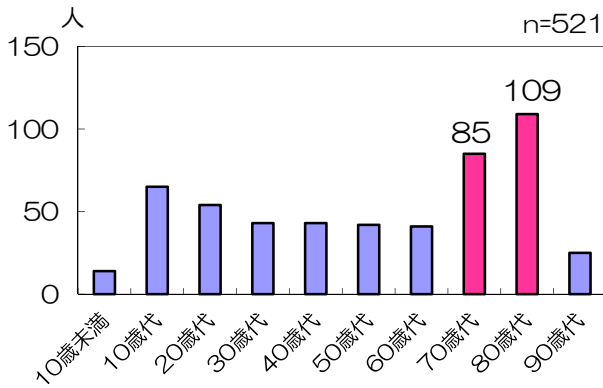
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

以下のグラフのデータは、5月1日からの累積搬送数です。

＜年齢別＞ 80歳代が109人（20.9%）で最も多く、**＜発生場所＞** 屋外56.6%、屋内43.4%で、次が70歳代で85人（16.3%）でした。屋外での発生が多くなっています。



＜重症度＞ 軽症58.2%、中等症37.6%、重症3.1%、重篤1.2%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が58.0%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

